

会議録(要旨)

【開催概要】

会議名称	第27回泉大津市子ども・子育て会議
開催日時	令和7年1月23日(木) 午前10時45分～午前11時25分
開催場所	泉大津市役所 3階大会議室
出席委員 (敬称略、順不同)	長瀬委員(会長)、久委員(副会長)、秋元委員、植野委員、亀谷委員、秦委員、 檀委員、納谷委員、平委員(計9名)
欠席委員	榎並委員、大橋委員、谷委員、
事務局	藤原健康こども部長、鍋谷教育部長、向井誠風中学校校長、谷中健康づくり課長、 森口福祉政策課長、深澤障がい福祉課長、大内こども政策課長、向井子育て応援課 長、里見こども育成課長、藤谷指導課長、大和スポーツ青少年課長、堀内こども政 策課長補佐、永本子育て応援課長補佐、瀧川こども育成課長補佐、細見こども育成 課長補佐、青山スポーツ青少年課長補佐、村田こども政策課統括主査、(株)ぎょ うせい3名
会議次第	1. 開会 2. 案件 (1) パブコメの結果及び意見に対する市の考え、やさしい概要版についての 小中学生からの意見 (2) 第三期子ども・子育て支援事業計画の策定について(答申) 3. 閉会
会議資料	【配付資料】 資料1 第三期いずみおおつ子ども未来プラン(案)に対する市民等の意見と 泉大津市の考え方 資料2 第三期いずみおおつ子ども未来プラン(案)やさしい概要版に対する 小中学生からの意見について 資料3 第三期子ども・子育て支援事業計画の策定について(答申)(案)
公開/非公開	公開
傍聴者	1名
その他の必要事項	なし

【議事要旨】

	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議成立要件の確認（委員 12 名中 9 名が出席のため成立） <p>2. 案件</p> <p>（1）パブコメの結果及び意見に対する市の考え、やさしい概要版についての小中学生からの意見</p>
会長	◇事務局は案件（1）について説明してください。
事務局	●資料 1 および資料 2 に基づき、事務局から説明。
会長	◇ただいま質疑並びに小中学生の意見と、それに関する市の考え方をご報告いただきました。こちらの件について何かご質問・ご意見はございませんでしょうか。
委員	◇資料 1 意見 1 に対する「市の考え方」について、①「専門性のある教員への相談」というのはどういう専門性をお持ちの教員を配置されているのか、②「連携する専門職に相談できる体制」とはどういった部署のどういう方なのか、③「必要に応じて連携する団体の紹介」とは具体的にどういう団体なのかについて、詳細を教えてください。
事務局	◆①専門性のある教員というのは、各学校には特別支援コーディネーターという役職があり、学校内で発達相談の教育相談を受けることも業務の一つとしています。この教員は支援教育に係る教員免許を持っている者もあり、特別支援教育士の資格を持っている人もいます。次に、②の連携する専門職に相談できる体制については、市も専門相談員を雇用しており、大学教授との連携や大阪府の支援学校の先生も含めた泉北リーディングチームに相談することも可能です。また、市で雇っている心理士による巡回相談なども実施しています。③連携する団体については、様々な団体のチラシを学校で配布、校長会で紹介しています。
委員	◇連携する団体には、放課後デイや児童発達支援も含まれますか。
事務局	◆はい、含みます。
委員	◇パブコメでこういった意見が出てくるということは、様々な相談体制はとられているけれど、まだ不十分ということかと思imasので、そのあたり保護者への周知をもっと進めていただきたいです。
会長	◇資料 2 小中学生からの意見でアンケート結果②「子どものケアと同時に親のケアもできる体制があったらいいのではないかと思った。金銭的な支援よりも気持ちの面で。」という意見があります。金銭的な支援は基本ですが、こういった気持ちの面でのサポートも改めて大事にして、行政には計画を進めていただければと思います。
委員	◇市内で 10 年以上発達支援の現場をサポートする活動をしてきて、私自身も子育て

てをしてきました。資料1のコメントで発達障害に関するものがありましたので、私がメンターで関わらせていただいた親御さんの声をお伝えできればと思います。

「今は、たくさんの伴走してくれる人に囲まれて、ひとりじゃないと思えます。昔は『個性』という言葉に振り回されて、考えることすら放棄していました。子育ては長距離走。これからも自分自身成長しながら、こどもとの関わりを一つひとつ乗り越えたいと思います。」これは、親御さんから直接いただいたメッセージです。私はこの方には伴走してくれる人をすべて繋ぎました。当時はお子さんが脱走するような状況で、先生方も羽交い締めにして中に連れていくような状況でした。親御さんも先生方も困っているような時代だったと思います。小学校は随分変わったと思っています。専門性のある先生も増えて、ともに考えてくれていると思います。

しかし我が子が中学校になり、中学校の発達支援は昔と変わっておらず、驚愕しています。そこはきっと、発達障害を「個性」、子育ての困りごとを「個性」という言葉にしてきた結果なのかと思います。

発達相談の専門家から助言を受けながら活動していますが、心理士の先生から発達相談に関する相談は傾聴だけではうまくいかないとはっきりとおっしゃっておられます。これまでの心理職として傾聴ということが強く言われてきましたが、発達障害はそういうわけにはいきません。私自身が思春期のペアトレや進路、就労などご家族やご本人の人生に伴走しています。

私たちは市民の中でも少数派なので、こういったパブリックコメントに意見を書くことは勇気が必要で、その勇気に耳を傾けなければ、行政を信用しなくなり、発言をやめてしまうことにつながります。市内でご活躍される尊敬する方から、「あなたがしていることはみんなが見たくない、見えない、見ようとせずテーブルの下にあるものを、テーブルの上に出す役割なんだよ。」と言われたことがあります。本当にそうだと思います。これからもこういった場でも、保護者の思いやお子さんの現状をお伝えさせていただきたいです。

事務局

◆小中学校の方でも、パンフレット等配らせていただいたり、色々な取り組みをしたりしています。中学校の支援教育につきましても、学校の先生方への研修など、充実に努めていきたいと考えているところです。

事務局

◆中学校の支援教育が小学校より進んでいないという現状は確かにあります。ここ数年、教育委員会が企画する研修や府立の各学校と連携をとるような支援資格の研修会などには、できるだけ参加を促し、支援学級を担当する先生には免許取得を促進しております。頑張っって進めていきたいと思っております。

会長

◇その他、何かご質問はありますか。なければ次の案件へ進めます。

(2) 第三期子ども・子育て支援事業計画の策定について(答申)

事務局

●資料3に基づき、事務局から説明。本日の案について意見を頂戴した上で必要な修正を加え、3月17日に市長へ答申を行う予定と説明。

会長

◇ご意見、ご質問はありますか。

副会長

◇答申の案は、結構かなと思います。計画を進めていくために、私の方から二点ほどお願いをしたいと思っています。

一点目は連携とか共創ということがとても重要だと思っています。すべての主体は完全ではないので、お互いに補っていくという視点が重要だと思っています。市役所側も学校側もヘルプを出して、助けてほしいところを伝えて、共創を進めてほしいと思います。そのためには、そういうパートナーを増やしておくこと、すぐにお願いができる信頼関係を作っておくことが重要だと思っています。二点目は、すべての部署の方々が、子ども子育てに関係していると私は思っています。今日お集まりのメンバー以外の市役所の方々にも、是非とも、こういう思いを共有していただければなと思います。

具体的に、居場所について言いますと、公園とか広場は大変重要で、今まで公園は管理者目線で、禁止されていることが多かったのですが、できるだけ「ダメ」というところを我慢しながら可能性を伸ばしていけるようなサポートを、公園の管理部署も持って欲しいと思っています。しかし、その「ダメ」というルールを作ってしまうのは、一方で、市民側の姿勢というのもあり、快く思っていない市民の方がおられるので、それを禁止するという事になっていると思うので、市民同士もお互い様という気持ちを持ってほしいと非常に思っています。

茨木の子育て複合施設のおにクルでは「簡単にダメと言わない」ということをキーワードにしています。おにクルでは、すべての階でフリースペースがあり、テスト前になると、中高生が長時間座席を占有するような場面があります。それに対して様々な苦情が出るのですが、管理者としてはあまり制限しないよう頑張っています。すべての人がお互い様という気持ちを持って、みんな譲り合って過ごせるようにしてこそ、こども中心の社会が実現していくと思います。すべての市役所の方、すべてのこどもに関わる地域の方がひとつの方向性をもってこそ、計画を実現してほしいと思います。

事務局

●官民連携、市民共創は最も大切なところだと思いますので、パートナーを増やして、力を借りながら全庁的に取り組んでいきたいと思っています。また市民、団体にも共有しながら進めていきたいと思っています。

会長

◇委員の皆さんよろしいでしょうか。では、この案で答申をさせていただきます。次第の案件についてはこれで終了となります。事務局から報告をお願いします。

事務局

●こちらのプランのレイアウトやデザインなども含めて、調整を行い、市役所内での決裁手続きを経て、第三期泉大津子ども未来プランとして正式に確定となります。計画策定のため子ども子育て会議は、本日をもって終了となりますが、計画の進捗状況や、子育て支援施策に関する調査審議などの役割がございますので、今後も必要に応じて、引き続き会議を開催して参ります。

・藤原健康こども部長よりあいさつ

3. 閉会

以上